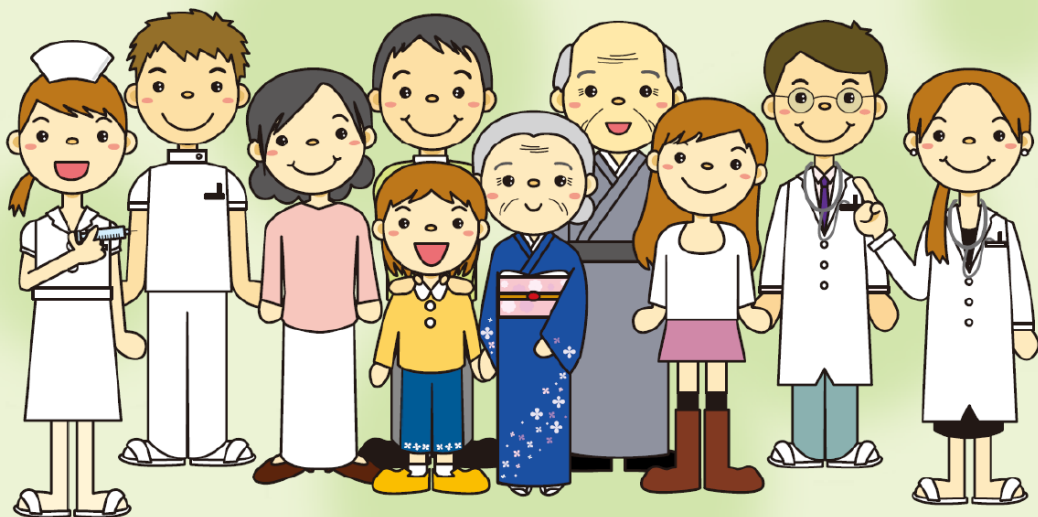


! 地域連携クリティカルパスを使って

脳卒中になられた方を

地域の医療保健福祉従事者
みんなで支えます



地域連携クリティカルパス（地域連携パス）について

脳卒中は、治療やリハビリが長期にわたり、自宅などに戻られた後は介護サービスなどの支援が必要となる場合もある病気です。

このため、地域の医療保健福祉に従事する関係者が、**地域連携クリティカルパス（関係者が共有する「診療計画表」）**を使って連携することで、切れ目のない治療やリハビリ、介護サービス等を提供し、脳卒中になられた方が安心して療養生活を送ることができるようにしていきたいと考えています。

脳卒中・・・こんな症状があったら・・・



すぐ救急車を呼びましょう！



- 片方の手足・顔半分のしびれやマヒ
- ロレツが回らない、言葉が出ない、人の言うことが理解できない
- 立てない、歩けない、フラフラする
- 片方の目が見えない、物が2つに見える
- 経験したことのない激しい頭痛

※治療の内容によっては、ご家族の同意が必要な場合がありますので救急車にはご家族も必ず同乗しましょう。



脳卒中とは

不適切な生活習慣（不適切な食生活、運動不足など）の積み重ねにより、引き起こされる生活習慣病（高血圧、脂質異常症、糖尿病など）が主な原因で発症する病気です。

脳卒中には大きく2つのタイプがあります。

どちらも急に発症し、損傷を受けた脳の場所や範囲によって、からだの麻痺、言葉が出ないなどの症状が異なってきます。

血管がつまる
「脳梗塞」

血管が破れる
「脳出血」と
「くも膜下出血」

脳の細胞はいったん死ぬと回復しません。

そのため、脳の損傷をできる限り少なくするように、脳卒中のタイプに応じて治療が行われます。



脳卒中の治療・リハビリは、長期にわたるため、関係機関で役割分担して行います！
このため、地域連携クリティカルパスを使って、関係機関同士での「連携」を強めます。

急性期

回復期

維持期

①救急病院(急性期病院)の役割

命を救うこと、脳のダメージを少なくすることが治療の最優先！



救急病院 (急性期病院)

3時間以内
で様々な
条件が
そろえば

保存的治療
が適切な
ときは

手術した方
がいい時は

血栓溶解療法
tPA等

内科的治療
輸液や投薬

外科的治療
手術

麻痺や言葉の
障害等の後遺症
が残り、
リハビリで改善が
期待できるとき

後遺症が
ないか
軽いとき

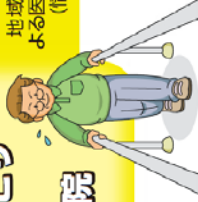
不幸にして命を
落とされる
患者さんも
少なくありません

②回復期の病棟・病院の役割

リハビリが治療の中心！



回復期リハビリ を行う 病棟・病院



地域連携バスに
よる医療・福祉連携
(情報共有)

かかりつけ医



自宅など

介護サービス等
福祉関係者

③維持期の役割

基礎疾患(生活習慣病)の管理、栄養の管理、リハビリの
継続、介護サービスなどを行うことで、再発・悪化
・閉じこもりなどを予防するための支援を行います！



リハビリの意味

脳卒中による障害のため「できなくなったこと」を様々な方法により、
障害があっても「できることを増やすこと」です。

その方法として、「障害そのものの改善」、「別な方法でできるよ
うになる」、「福祉機器や環境を工夫してできるようにする」などがあり
ます。

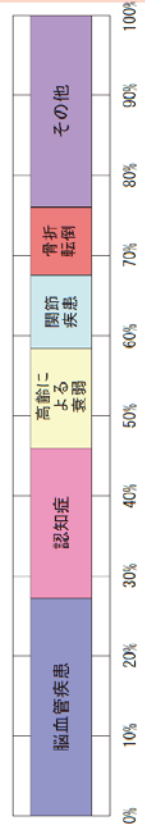
そして、病院を退院してリハビリが終わるわけではなく、退院後も
焦らずに日常生活を通じてリハビリを続けることが大事です。

脳卒中をおこした時の
治療は、患者さんひとり
ひとりで異なります。



※脳卒中は、要介護となった主な原因の第一位です！

要介護となった主な原因 (出典：平成19年国民生活基礎調査)



脳卒中について 知っ得メモ その1

～脳卒中の再発予防のために生活習慣を見直しましょう～

お医者さんに相談しながら健康管理をしましょう。

脳卒中の発症には、高血圧、糖尿病、脂質異常症、心臓病等の持病が大きく関係します。これらの持病についてもしっかり管理していくことが必要です。

食生活などの生活習慣を見直し、定期的にお医者さんにかかり診察や検査を受け、状態が変わっていないか確認しましょう。



よい食習慣を！

栄養を考えた
バランスの良い食事



睡眠や休養を充分にとり、 楽しみを持ちましょう。

家に閉じこもらないで積極的に外へ出かけ社会生活に参加する、好奇心をもって創造的な活動にチャレンジするなど、脳を積極的に使うようにしましょう。



禁煙、お酒もほどほどに！



適度な運動習慣を持ちましょう。

有酸素運動（ストレッチ体操、ウォーキングなど）で脳にしっかり酸素を送り込み、働きを活発にしましょう。



寒さ対策を忘れないようにしましょう。

激しい温度差は血管への負担を高めます。外へ出かけるときはもちろんですが、家の中での寒さ対策（トイレ、お風呂の脱衣場など）を忘れないようにしましょう。



入浴はゆるめの
温度で、長湯は
さけましょう。

脳卒中について知っ得メモ その2

～口腔ケアを忘れちゃいけない～

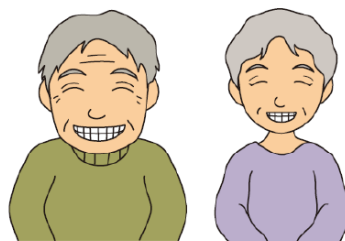
脳卒中の大事なリハビリのひとつであるのに、忘れられがちなのが口腔ケアです。

後遺症による麻痺などにより、口の中の清潔が保ちにくくなっているにもかかわらず、口腔ケアが不足することで、更に口の中に雑菌が繁殖し、汚い舌苔ぜったいがたまったりします。

この雑菌をだ液や食物と一緒に誤嚥（食べ物やだ液が誤って気管に入ってしまうこと）すると、肺炎を併発しやすくなります。

また点滴や流動食が続いたり、麻痺のために咬合（ものをかみ合わせる）力が衰えたりすると、歯肉がやせ、義歯が緩んできて「食べる力」が衰えてしまいます。

「食べる」ことは生きる力を得ることになりますので、口腔ケアは忘れないようにしましょう。



脳卒中に関する医療機関リスト（専門医療機関）は、県ホームページ上で掲載しています。
アドレス <http://www.pref.ishikawa.jp/iryuu/>

発行 石川県健康福祉部地域医療推進室

住所 〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1449 FAX 076-225-1434

監修 能登脳卒中地域連携協議会